

施策評価シート(平成16年度の振り返り、総括)

作成日 平成 17 年 7 月 28 日

施策No.	11	施策名	生涯スポーツ・レクリエーションの振興
主管課名	社会体育課長	主管課長名	飯塚 征司
関係課名	生涯学習課、福祉課		

施策の目的 対象	市民	対象指標名	単位	15年度実績	16年度実績	17年度実績
		人口	人	65,779	66,094	

施策の目的 意図	日頃からスポーツ・レクリエーションに取り組んでもらう。	成果指標名	単位	15年度実績	16年度実績	17年度実績
		何らかのスポーツレクリエーションを行っている市民の割合	%			41
成果指標の把握方法(算定式など)	アンケート調査により把握する。社会体育課把握による。	市のスポーツ施設利用者延べ数	人	259,246	285,235	

成果指標設定の考え方	市民意向調査は平成17年4月の調査結果を使う。
------------	-------------------------

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	スポーツ・レクリエーションは市民が自主的におこなうことが基本である。行政はスポーツ・レクのきっかけづくりと施設などの場の提供が役割となる。
-------------------------	---

16年度の 評価結果	<p>1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)</p> <p>市のスポーツ施設利用者は平成16年で28万5235人で、前年度と比較すると増加している。学校開放の利用者も平成13年は5万7900人から、14年4万6千人、15年4万3900人、16年が5万1千人と推移している。総合体育館は5.2%、武道場は8.9%、スケート場は8.1%の増加が見られた。平成17年の調査では、市民の約12.4%がスポーツをしていないと回答している。平成17年調査での市民5大スポーツ・レクは、ウォーキング、ゴルフ、ボウリング、バーベキュー、釣りである。今後やりたいスポーツ・レクリエーションでは、水泳、ハイキング、ウォーキング、サイクリング、野外バーベキューがあげられている。団体でのスポーツが減少し、個人でのスポーツが増えてきている。</p>
	<p>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括</p> <p>平成16年は体育指導委員によるニュースポーツ(パドルテニス)の普及・指導に取り組んだ。スポーツ教室としては、子どもバドミントン教室、少林寺拳法(護身術)、こども体操教室、弓道教室、エアロビクス、健康ストレッチ、女性水泳教室、トレーニング教室、こどもスケート教室などをおこなった(参加者数は延べ1,090人)。中でも女性水泳教室の人气が高い。弓道も教室をきっかけに継続する人が見られた。総合型地域スポーツクラブについては、研修会等を受講された方もいるが、発足にはいたっていない。</p>
	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p> <p>市民のスポーツ・レクリエーションのニーズが変ってきていることが考えられるので、その把握が必要である。スポーツ・レクの実施状況とともに意向の調査が必要。スポーツ教室もさらに市民のニーズに合わせて教室を開催していく。</p> <p>全国的な傾向と同様に、真岡市でも高齢者の老人クラブへの加入意向が減少し、その結果、スポーツ・レクをする高齢者の減少にもつながっている可能性がある。地域での総合的なスポーツ実施のためには、指導者の確保と育成が課題となる。</p> <p>また、介護予防の対策として高齢者の筋力トレーニングの必要性が高まっており、高齢者の健康づくりの観点から、市としても平成17年度から積極的に取り組んでいる。</p>